

課題

- 1 小学校から中学校への「学び」のつながりという視点から以下のことが必要である。
 - 小学校段階での学習到達目標の設定
 - 児童の学習状況の中学校への引き継ぎ
- 2 中学校区内の市内4小学校間で、学習の進め方や児童の学習状況等の情報交流が必要である。

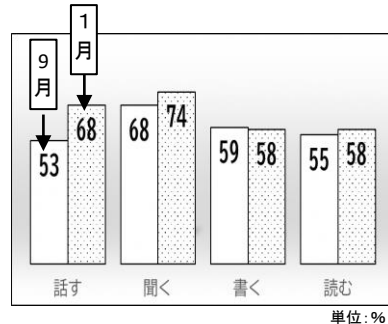
具体的な取組と工夫

- 中学校区4小1中学校の外国語科主任を中心に、交流のための組織を立ち上げ、取組を進めた。
 - 研究方針の共有
 - 各校の取組について情報交換
 - 授業づくり(指導案検討・研究授業・振り返り)
- 外国語教育の具体的な指導法と外国語学習における小中連携の在り方について、講師を招聘し研修を行った。
- 小学校1校を実践校とし、協働での授業モデルづくりを行った。
 - 6月 授業参観
 - 8～11月 指導案検討・研究授業・振り返り
- 取組の評価の指標として、児童が外国語科および外国語活動の学習に対する自己評価をどのように変容させていくかを前期(9月)・後期(1月)にアンケートをとり、実態把握の資料とした。



成果

- 【小中での学習状況等の交流】
 - 子どもの学習意欲や指導のスタイルに小中間で違いを、具体的にとらえることができた。
 - 中学校での指導が円滑に接続できるように、小学校間で指導の差が出ないようにする必要性を認識することができた。
- 【外国語科担当教員のつながり】
 - 小学校間や校種を越えて助言・相談できた。
- 【授業モデルの共有】
 - 指導法の研修内容を授業づくりに生かせた。
- 【児童の変容】
 - コミュニケーションの目的・場面・状況を重要なコンセプトとした授業づくりが、「話す」「聞く」ことへの児童の意欲を高めることにつながった。



児童アンケート《どんなことができるようになりましたか。》

課題及び改善案

- 中学校区4小1中学校交流のための組織を基盤にさらに取組を積み重ねる。
 - ⇒言語活動を充実させるための指導法について情報共有する。
 - ・パフォーマンス評価等の評価研修をする。
 - ・「学びのつながり」を意識した学習到達目標を設定するとともに、学習状況の引き継ぎ方法を検討する。
- 小学校での授業モデルの一般化と中学校での授業モデルの構築
 - ⇒授業づくりを行った小学校の授業モデルを小学校間で実践し、拡げる。
 - ・中学校を実践校とし、協働で授業研究を行う。